

青島トゲナシニセアカシヤ挿木育苗試験

助 手 渡 部 政 善

1. 試 験 目 的

近時銅肥料木として牧野探草池の改良、林地、林木の改良成育促進にトゲナシニセアカシヤの増殖が要望されているが本邦では未だ母樹僅少で、ために大量生産が出来ず苗木も高価にしてその増殖をはばんでいる状態である。然るに少ない母樹から得られる挿穂を最高度に活用するため最も有利確実なる育苗方法を究明せんとする。

2. 試 験 方 法

供試挿穂は一年生枝を2月下旬に採取の上鋸屑中に貯蔵せるものを用い、利用穂長12.0 cm、太さ1.0 cm以上のものを使用し、穂拵いは利用穂長より多少長めに剪定鋏により切断し小刀を以つて挿付部分を修正した。

植物ホルモン剤処理はエチルアルコール（日本薬局方）1/1,000倍液、三共 α ナフタリン醋酸ソーダ5万倍液各々12時間処理を行つた。

無処理区は作穂後12時間そのまま放置したものを使用した。

挿付は1m巾の短柵床を踏固めた後案内棒を用いて20cm正方に45°の角度を以つて挿付けた。

3. 試 験 成 績

青島トゲナシニセアカシヤ挿木育苗試験表

種 名	発 根 促 進	挿 付 年 月 日	調 査 年 月 日	挿付本数	発根本数	発根率	平均幹長	平均幹径	平均発根数
				本	本	%	cm	cm	本
青島トゲナシニセアカシヤ	α ナフタリン醋酸ソーダ区	29.4.21	29.12.20	498	161	32.33	18.57	0.47	2.24
"	アルコール区	"	"	498	431	86.55	41.97	0.58	2.77
"	無 処 理 区	"	"	498	121	24.30	17.56	0.42	2.11

気候、平均気温、地中温度（5 cm）降水量（昭和29年）

区分	月別												全年
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	
平均気温	0.6 °C	2.2	5.5	12.2	16.3	16.6	20.3	25.9	22.9	13.5	8.8	3.7	12.4
地中温度	0.7 °C	0.7	3.9	13.1	17.1	18.4	22.6	26.5	23.0	13.8	7.1	2.8	12.5
降水量	56.1 mm	28.8	128.4	168.6	110.4	175.9	255.9	92.9	373.7	122.6	61.8	33.1	1,608.2

考 察

- (1) 植物成長ホルモン（アルコール区は成長ホルモンとして作用するのか水揚効果として作用するかはつきりしない）使用区は無処理区に比し、アルコール区356.2%、 α ナフタレン醋酸ソーダ区は133.0%それぞれ発根増を示した。
- (2) 1年生にて山出し出来る本数（30cm以上）は無処理区23本 α ナフタレン醋酸ソーダ区38本、アルコール区329本で無処理区を100とすると α ナフタレン醋酸ソーダ区は165.2%、アルコール区は実に1,430.0%となる。
- (3) 発根状態は無処理区は横に1本の太い根が出るに過ぎないが、 α ナフタレン醋酸ソーダ区では太い根に多少の細根を見、アルコール区では3~4本つ太根に多くの細根の発生が見られ植栽後の成長も良好と考られる。（写真参照）
- (4) この試験の成績は昭和29年度1ヶ年の成績であり、気候条件にも恵まれている事も事実であるこれらの成績を以つて結論づけることは出来得ないと考える。



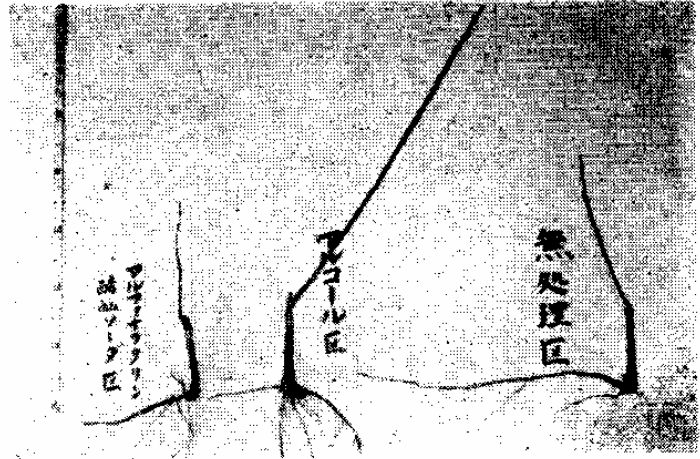
α ナフタレン醋酸ソーダ区



無 処 理 区



アルコール区



各区発根形態